



【日本気象協会からのお知らせ】

2018年8月29日
一般財団法人 日本気象協会

気象水文リスク情報（日本気象協会）研究分野 第2期 最終成果報告会を開催します

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区 会長：石川 裕己）は、京都大学に「寄附研究部門：気象水文リスク情報（日本気象協会）研究分野」（以下、「本講座」）を2013年10月から設置しています。

本講座では、気象水文に関連する災害情報について、観測技術の高度化や予測情報の不確定性を考慮した活用方策を検討し、革新的な気象水文情報の創生と利用に関する研究を進めています。「平成30年7月豪雨」の記憶も新しい中、気象水文リスク情報の社会への還元はますます重要な課題となっています。

このたび2018年9月末での第2期 寄附研究部門の活動終了にあたり、5年間の研究成果を報告するとともに、観測技術・予測モデルの高度化から防災教育にいたる気象水文リスク情報の発展に向けた議論を深める場として、最終成果報告会を開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

「気象水文リスク情報（日本気象協会）研究分野」第2期 最終成果報告会

■日時：平成30年9月6日（木） 13:00～17:00（受付開始 12:30）
（交流会 17:30～19:30）

■場所：京都大学宇治キャンパス おうばくプラザ きはだホール

■参加費：無料（前日までにお申し込みください）

*報告会終了後、宇治キャンパス レストラン「きはだ」にて交流会を行います。

会費：一般2,000円 学生1,000円 申込〆切り：8/31（金）

■主催：京都大学防災研究所 気象・水象災害研究部門

■詳細情報・お申し込み方法

下記ページをご覧ください。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/news/10924/>

以上